

薬学委員会 薬学教育分科会（第24期・第3回）

日時： 10月10日(水) 10時～12時

場所： 日本学術会議6階 6-C会議室（1）

出席者（敬称略・名簿順）：

佐治英郎、望月眞弓、赤池昭紀、伊藤美千穂（幹事）、入江徹美、太田 茂（委員長）、奥 直人（副委員長）、笠原 忠、堤 康央（幹事）、安原眞人

議題： （1）前回議事（H30.6.19開催 第24期・第2回）要旨案の承認について
（2）薬学分野での教育過程編成上の参照基準作成について
（3）その他

議事録・議事メモ：

○議題（1）前回議事（H30.6.19開催）要旨案の承認について

- 委員長の太田連携会員から前回議事（H30.6.19開催）要旨案の説明、確認があり、これを承認した。

○議題（2）薬学分野での教育過程編成上の参照基準作成について

- 前回議事（H30.6.19開催）を受け、資料1の「6年制の特性（案）」について入江連携会員より説明があった。その後、安原連携会員から補足・追加説明があり、薬学6年制・4年制の多くは薬学固有で共通であり（例えばRS、薬物動態、安全性など）、特性分けには十分留意する必要があること、また、薬学6年制・4年制を問わず、生命倫理、医療倫理、研究倫理が重要であるとの指摘があった。

* 「6年制の特性（案）」の作成担当：望月第二部会員、入江連携会員、安原連携会員

- 医療系他学部（医学、歯学、看護学）の参照基準に記載されている医療人養成の特性、項目建て（資料2および資料3）を参照しつつ、「6年制の特性（案）」についての意見交換を行った。

- ✓ 既存の「4年制薬学の参照基準」とは別に、「6年制薬学の参照基準」を作成するのではなく、6年制と4年制の二つで1つの薬学であることを念頭に、一つの参照基準を作成することとなった。なお、作成に際しては、「6年制の新モデルコア」および既存の「4年制薬学の参照基準」を参考にすることが確認された。
- ✓ 参照基準は簡単に変更すべきものではなく（モデルコアのような改訂をするものではない）、薬学固有の多様性、特性を大局的に記載するものであるとの意見があり、これを確認した。

- ✓ 薬学固有の特性として、「物質⇔ヒト・患者」という捉え方が、他の医療系学部、理系学部との違いであることが確認された。
 - ✓ 6年制と4年制の特性の違いは、薬剤師（研究者、企業人、行政担当などである場合も含む）であるかないかで切り分けてはどうかとの意見があった。
*現場（臨床、環境など）でのトレーニング、経験がもたらす専門性、4年制ならではの有機・物理化学・生物学等の専門性における深みの違いなど。この専門性の違いを社会が求めている事実（就職など）。
 - ✓ 「患者」という視点だけではなく、薬剤師の付帯資格を参考に、広く食品、化粧品、化学物質、環境、危険ドラッグ、労働現場、製造現場等の安全・安心を担っていることを記載してはどうかとの意見があった。これは、ヒトの健康確保を考究するサイエンスとしての薬学が、他の医療系学部には無い特性を持っていることを示しているとの補足があった。
- 以上をもとに、6年制・4年制を含めた共通の固有特性を「参照基準」ではしっかり落とし込み（約半分を使ってよいのでは）、残り1/3を6年制、残り1/6を4年制に固有特性を記載するようなイメージではどうかとの意見があり、大筋確認された（まず項目建てをしてから細部は詰めていく）。なお、薬学に特徴的な部分もあることから、必ずしも、他の医療系学部の参照基準に囚われないことが確認された。
 - 来年度にシンポジウムを企画することを念頭に、まずは項目建てを検討することとなり、雛形を委員長から提示頂き、キーワードを各委員が追記し、次回に検討することとなった。
- ✓ イメージ
 - ・1.はじめに「4年制薬学の参照基準」を活用
 - ・2.薬学の定義「4年制薬学の参照基準」を活用
 - ・3.薬学の特性新規（半分を共通、1/3を6年制、1/6を4年制）
 - (1) 薬学固有の視点：キーワード
 - (2) 最近の薬学で重要とされる視点：キーワード
 - (3) 薬学に対する社会からの要請：キーワード
 - ・4.薬学を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養
 -新規（半分を共通、1/3を6年制、1/6を4年制）
 - ・5.学習方法及び学修成果の評価方法に関する基本的な考え方
 -「4年制薬学の参照基準」を活用
 - ・6.市民性の涵養をめぐる専門教育（薬学6年制と4年制）と教養教育の関わり
 -「4年制薬学の参照基準」を活用
 - 既存の「4年制薬学の参照基準」とは別に、「6年制薬学の参照基準」を作成するのではなく、6年制と4年制の二つで1つの薬学であることを念頭に、一つの参照基準を作成することとなった。なお、作成に際しては、「6年制の新モデルコア」および既存の「4年制薬学の参照基準」を参考にすることが確認された。

* 参照基準は簡単に変更すべきものではなく（モデルコアのような改訂をする）

○議題 (3) その他

- 次回（第 24 期・第 4 回）は、2～3 月に開催する方向で確認され、日本学術会議に、会議開催の是非を問い合わせることとなった。
- 望月第二部会員から、日本学術会議の最近の動向に関して説明があった。